

# どじつする「核のごみ」

## 8月3日 地震学の尾池氏が講演

原子力発電所の使用済み核燃料から出る高レベル放射性廃棄物「核のごみ」の最終処分について考える講演会が8月3日午後2時(開場1時半)から、和歌山市小入町の市男女共生推進センター(あいあいセンター)6階みらいホールで開かれる。

核のごみを考える 都大学総長、福島第  
実行委員会(島廣樹 一原子力発電所事故  
代表)が主催、市民 調査委員会委員など  
連合わかやま、週刊 を務めた地震学者の  
金曜日わかやま読者 尾池和夫さん。  
会が共催。講師は京 「核のごみ」につ



講師の尾池和夫さん

いては、放射能が自然界に存在するレベルに低減するには数万年を要することから、地下の岩盤に埋設する「地層処分」が、現時点で最も安全で実現可能な処分方法とされる。原子力発電環境整備機構(NUMO)などは、地層処分の適地が日本列島に広く存在するとの認識を示しているが、地球科学の専門家は2023年10月、地殻変動

の激しい日本には適地はないとの声明を発表している。

講師の尾池さんも、地球科学の専門家として適地が「広く存在する」との考えに異を唱える一方、唯一の期待できる選択として、日本最東端の南鳥島を地層処分の候補地として提案している。

尾池さんの論考(「學士會会報」94号)によると、南鳥島は、太平洋プレートが生まれて約1億5000万年経過した位置にあり、世界で最も安定した海洋プレート上にある日本の国土。火山の噴火、活断層の活動による地震の発生、地滑りなどの変動帯特有の現象がないことが分かっている。

しかも、島に施設がある海上自衛隊と気象庁の職員が駐在するのみで、一般の市民がいない。

今回の講演会は、尾池さんの論考を読んで感銘を受けた島代表(島循環器・内科院長)が、尾池さんに依頼して開催が決まった。

尾池さんは「日本列島における南鳥島の位置づけ―地球科学の視点から―」と題して話す。参加費は資料代500円。定員は150人。申し込みは不要。

島代表は「原発を考える上で、どうしても使用済み核燃料の問題を解決しなくてはならない。地震学の権威が『唯一』と提案する南鳥島の話を、ぜひ聴いてほしい」と話し、来場を呼びかけている。問い合わせは島代表(TEL073・424・9108)。